

第三者保証



本報告書に記載されているCO₂排出量、エネルギー使用量、石油由来資源投入量、外部排出物量、石油由来資源廃棄量、包装材料使用量、VOC大気排出量および水使用量が、コニカミノルタが定める基準に従って把握、集計、開示されているかについて、KPMGあずさサステナビリティ(株)による保証を受けました。



実施期間：2011年3月～6月



神戸サイトでの現場確認



資料の確認

保証業務を実施して

昨年度はエネルギー使用量とCO₂排出量のみが保証の対象でしたが、今年度から、レポートの信頼性向上を図り、外部排出物量（廃棄物等の重量）やVOC大気排出量などの中期環境計画に関連する指標を中心に保証対象の指標が拡大されました。また、個々の事業会社で異なっていた物流CO₂排出量算定の基となる距離データの統一化を図るなど、公表される指標の精度向上にも注力されています。

国内拠点のエネルギー使用量や外部排出物量等は情報システムを用いてデータの収集が行われていますが、システムの機能が十分に利用されていないと思われる事例が

KPMGあずさサステナビリティ株式会社 菅生 直美 氏

見受けられました。例えば、入力漏れや著しく誤った値の入力は、入力値が前月値・前年同月値からの一定範囲外になった場合にアラートがでる機能を利用することで、相当量防ぐことが可能と考えます。また、情報システムの演算機能を利用することで、省力化をはかりながら数値の正確性を高めることもできると思われます。

精度の高い集計を迅速に行うためには、数値のダブルチェックといった人による対策も重要ですが、限られた人的資源の中で、ハード面（システム）で人的エラーを防止、発見する仕組みの構築も同じように重要と考えます。